

福祉レクリエーションの専門性確立に向けて ～西宮・福祉レクリエーション学習会7年半の成果と課題

田島 栄文 [神戸医療福祉大学]

1987年制定の「社会福祉士及び介護福祉士法」の中の介護福祉士養成指定科目として「レクリエーション指導法」が入った。この法律制定により、社会福祉領域におけるレクリエーションは国家資格者である「介護福祉士」が身につけておかなければならない知識・技術として確固たる地位を得た。また、1989年福岡県で開催された全国レクリエーション研究大会で「福祉レクリエーション」部会が設けられ、翌1990年4月に「全国福祉レクリエーション・ネットワーク」が発足した。筆者が所属する「西宮市レクリエーション活動協会」も1987年に発足（当初は「西宮市レクリエーション福祉活動協会」と命名）し、全国福祉レクリエーション・ネットワークの準備期から関わり続けている。2007年1月から会員相互の学習会を復活させ、地域の福祉レクリエーションボランティア実践に力点を置いている。

本研究は、これまでの福祉レクリエーションの歩みを踏まえ、この7年半継続してきた福祉レクリエーション学習会の参加者アンケートを基に、その成果と今後の課題を明確にする。そして、福祉レクリエーションの専門性に着目し考察する。

石川県三井町の農村景観の変遷に関する研究 東京農業大学 地域環境科学部 造園科学科 自然環境保全学研究室・観光レクリエーション研究室 3年 風間咲紀 中澤里奈

石川県輪島市三井町は輪島市のほぼ中央に位置する。豊かな山林と平野を有し、特産のアテ材と農産物の供給地として歴史を重ねてきた。現在は金沢方面から輪島市街地に入る幹線道路があり、能登空港にもアクセスが良いため、観光レクリエーション地として効果が期待されている地域である。そして、三井町は2011年6月「能登の里山里海」が国内で初めて世界農業遺産に認定された。三井地区は山間部の農村集落で、アテをはじめとする山林、そして明治・大正期に建てられた茅葺民家が散在し、豊かな山村風景を形成しており、訪れる人々に印象的な景観となっている。三井町は平成17年度に輪島市教育委員会の委託を受けた(財)日本ナショナルトラストにより、文化的景観の選定に向けた予備調査が実施された。本研究は、2006年に東京農業大学で実施した景観調査の追跡調査を実施し、9年間の三井町における景観の変遷を明らかにした。その結果、アテ林を中心とした農村景観の基本構造は大きく変化していないことが明らかとなった。一方で2007年の能登地震により、土蔵が破損し、多くの土蔵が取り壊されている事が明らかとなった。